

～『兵士の物語 2018』公演よせて～  
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 67

## 初演 100 周年 『兵士の物語』

展示期間 /  
2018年9月13日(木)～10月16日(火)  
企画・構成 /  
関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2018年10月6日・7日、『兵士の物語 2018』(演出・美術：串田和美、出演：石丸幹二・首藤康之・串田和美ほか)が上演されます。本公演に因んで、本展では、イーゴリ・ストラヴィンスキーのサイン入り自伝、初演当時12歳の息子セオドアが描いた舞台風景の水彩画、バレエ・リュスに参加後、英国バレエの普及に尽力したロシア人ダンサー、リディア・ロポコワによるイギリス初演時のポスターなどをご紹介します。

### 『兵士の物語 (The Soldier's Tale/L'Histoire du soldat)』

〈作曲〉イーゴリ・ストラヴィンスキー

〈台本〉シャルル・フェルディナン・ラミューズ

〈初演〉1918年9月28日 ローザンヌ劇場

『兵士の物語』は、スイスに滞在していたストラヴィンスキーが、小説家のラミューズと出会い、ロシアの民話から題材を得て創作された小品である。パリで喝采を浴びた『火の鳥』(1910)、『ペトルーシュカ』(1911)、『春の祭典』(1913)が、大人数によるオーケストラ編成であったのに対し、少人数の役者と演奏家によるトラベリング・バンド作品として生み出された。指揮者のいない7人のオーケストラ、4人の役者とダンサーからなる編成、1時間弱の上演。ミニマムな編成ゆえに各地で巡演され、1918年の初演以来、現在もストラヴィンスキーの代表作として、世界各地で上演されている。

後年の作品には、ロバート・ヘルプマン(エジンバラ音楽祭1954)、ジャン・バビレ(スポレート1967)、ジョン・クランコ(ケープタウン1942)、エリオット・フェルド(アメリカン・バレエ・シアター1971)、アシュリー・ページ(ランベール・ダンス・カンパニー1988)、ハビエル・デ・フルトス(ロッテルダム・ダンス・グループ1998)、ウィル・タケット(アダム・クーパー主演2004)などがある。

### 『兵士の物語』あらすじ

休暇中の兵士が、母と婚約者が待つ故郷を目指し歩いていた。一休みしてヴァイオリンを弾き始めると、突然、老人に化けた悪魔が現れ、字が読めないという兵士を丸めこんで「金のなる」本とヴァイオリンを交換させる。その本には未来の相場情報が書かれていた。悪魔は3日間だけ本の読み方を教える代わりにヴァイオリンの弾き方を教えてくれないかと申し出る。

悪魔の家から故郷にたどり着いてみると様子がおかしい。兵士を幽霊扱いする母や村人たち。婚約者にも既に夫と子供がいる。悪魔と過ごした「3日」は、実は「3年」だったのだ。絶望に暮れる兵士に、悪魔が囁く。兵士は、悪魔にもらった本を使って大金持ちになるが、心は一向に満たされない。

再び旅に出た兵士は、原因不明の病にかかった姫に出会う。彼女の病気を治して結婚する運びとなるが、国王となった彼女の心は満たされない。望郷の念に駆られた兵士は、王妃と共に故郷の村へと出発する。そして、国境を越えた時、再び悪魔が現れ、そして……。兵士と悪魔の知恵比べの物語。

### 出展リスト

- ◆ 書籍・サイン入り自伝 (BK-0171-bio-ws)  
『Stravinsky: an Autobiography』  
(Igor Stravinsky / アメリカ / 1936)
- ◆ 書籍 (BK-0669-bio) 『Stravinsky in the Theatre』  
(Minna Lederman / アメリカ / 1975)
- ◆ 書籍 (BK-0207-pie) 『Stravinsky on Stage』  
(Alexander Schouvaloff, Victor Borovsky / イギリス / 1982)
- ◆ 台本 (LT-82) ポリショイ劇場 (ロシア / 1964)
- ◆ ポスター (PO-31) ケンブリッジADC劇場  
(イギリス / 1928.11.9.)
- ◆ 写真 (PH-D-154-1-ws) リディア・ロポコワ サイン入り
- ◆ 葉書 (PC-092-02) リディア・ロポコワ



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用